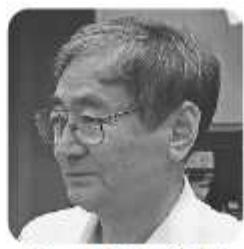




砂が戻りつつある吉浜海岸

問 市の面積の82%を占める山林の半分は人工林である。その林は戦前・戦後に祖父や父の代、



東 堅市 議員

答 森林施業の集約化による低コスト化を図る  
策は

「孫子のために」と植林し、汗水流して育ててきた。それが70年、80年経つて立派に育った今、木材価格が暴落したために山林所有者が施業意欲を失い、手が加えられずに荒れてきている。国では「森林再生プラン」を作つて復活に力を入れているが、市では問題をど

のように捉えているか。

答 市長 間伐、更新伐の森林施業を促進するため高性能機械の利用による高効率な作業システムの構築、複数の所有者の森林を取りまとめて施業の集約化による低コスト化を図りつつ、高率な補助事業による作業道などの設置による木材搬出経費の低減化を図つて森林経営意欲の喚起に努めたい。

「海水浴場」としての吉浜海岸の再整備は

問 室長 農地区画整理課  
で創設される非農用地を、駐車場やトイレ等の用地として本年度に取得予定である。換地業務の進捗状況をみながら今後の方針や整備時期、財源など

成と聞いている。先日の高波の時にはサーファーの姿が見えていたが、砂場とするには様々な設備が必要になるが、再生することを考えているのか。



今野善信 議員

問 気仙の医療機関、介護施設をインターネット上で情報共有し、地域住民の医療・介護を支える

答 市長 2市1町で共同し、国から選定を受けた「気仙広域環境未来都市構想」事業の一つで、ICTを活用した「未来かなえネット」の構築を進め運用されている。医療・介護・保

## 問 ICT医療連携システムで医療・介護の充実を

答 救急との連携を構築し、活用が展開される予定

取組が運用を開始した。このシステムの意義や今後の活用等について伺う。

問 気仙の医療機関、介護施設をインターネット上で情報共有し、地域住民の医療・介護を支える

答 市長 2市1町で共同し、国から選定を受けた「気仙広域環境未来都市構想」事業の一つで、ICTを活用した「未来かなえネット」の構築を進め運用されている。医療・介護・保

健・福祉の相互の情報共有を進めることは、限られた医療・福祉資源の有効活用を図るうえでも重要な意義をもつ。今年度は、気仙医療圏全ての参加希望施設への展開を完了させるとともに、救急との連携システムを構築し、訪問診療看護・介護におけるモバイル端末やタブレット端末の試行開始、地域連携パネルのICT化を目指としており、今後ますます活用が展開される予定となっている。

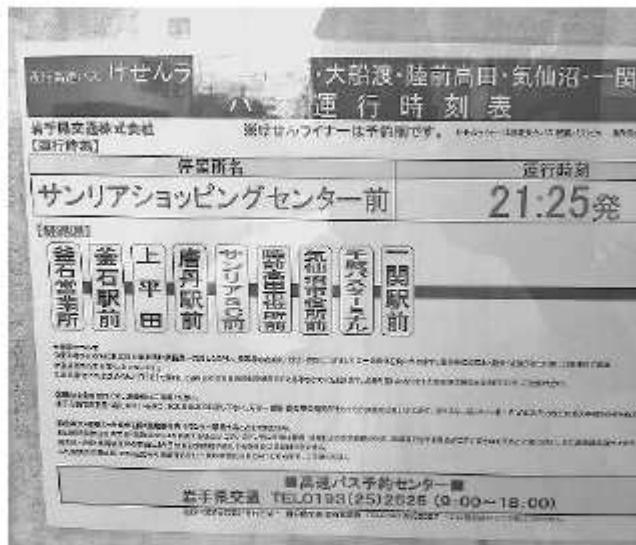
問 地域課題克服のため、気仙の広域連携についてどのように考えているか。

答 総括監 財政状況が厳しさを増す中、市単独での取組には限界があると考えている。このような事態を回避するため、広域連携の推進が必須であると認識している。現在、公共施設の相互利活用などに共同で取り組んでおり、広域連携が可能な事項は積極的に協調して対応するよう努めいく。



医療拠点の県立大船渡病院

## 一般質問



けせんライナー時刻表

**問** 災害公営住宅のコミュニティ形成の現状は

**答** 訓練を受けた支援員が活動を継続している



三浦 隆 議員

**問** 災害公営住宅で新しい生活をはじめられた方々がいかに安心して生

活できる地域コミュニティを形成するかということが当面の課題だが、当局が把握している現状は。

**答** 市長 昨年9月から応急仮設住宅支援協議会の支援員による「ミヨティ」形態にて、「ミヨティ」の成

熟度には差があるが、入居者と意見交換を重ねて、団地ごとに「ミヨティ」の成

は。

地にあった支援活動を開いている。

盛地区における緊急時の避難経路は

**答** 部長 盛地区では震災以前には浸水予想区域に入っていたのが、震災後は高台にも避難場所を定めた。各地区において避難経路は地域の実情に詳しい、住民や家庭で考えるのが望ましい。

また各地域の自主防災組織などでも防災訓練の際に、それぞれの地域において、独自に避難場所や避難経路の確認を行い、地域防災力を高めることが重要である。



船底英久 議員

**問** けせんライナー停留所廃止への市の対応は

**答** 運行会社と協議を続ける

**問** 夜間高速バス池袋・釜石線けせんライナーの越喜来停留所が、平成28年9月1日で廃止になつたにバス停を設けてほし

**答** 部長 越喜来バス停の廃止に際し、地域からはバス停の存続、もしくは、道の駅さんりくをトイレ休憩の停留所として位置づけ、協議してはどうか。

**問** 学校の統合によって校舎が残るが、その中で危険と判断された校舎は、どう考えるのか伺う。

**答** 教育長 統合で残つ

た。三陸道には、トイレ休憩用のパーキングが無いことから、道の駅さんりくをトイレ休憩の停留所として位置づけ、協議してはどうか。

た。三陸道には、トイレ休憩用のパーキングが無いことから、道の駅さんりくをトイレ休憩の停留所として位置づけ、協議してはどうか。

い旨の要望が、岩手県交通株式会社に寄せられていることから、同社は地域と意見交換を検討している。市としては、地区の皆さんから意見を伺いながら、岩手県交通株式会社と協議を行っていく。

た校舎については、耐震性や安全性の確保を念頭に置き、地域住民と意見交換の場を設け、費用効果や必要性など、総合的な観点から利活用等について検討していく。閉校となつた建物で、老朽化が著しく、補強工事等を行つても、十分な耐久性や耐震性の確保が難しくと判断された建物は、危険を回避するため、解体する方向で対応していく。



避難場所への案内標識